

チェック柄の2色配色と3色配色に対するイメージ評価

○朴 美愛 成瀬信子（文化女子大）

目的 チェック柄の2色配色と3色配色の基本的な考え方を構築するために、2色配色4パターンを規則的に定め、その各々のデザインを含める3色配色のパターンを規則的に定めた。これらを2色配色は同色系の濃淡、3色配色は2色配色に中濃度を加え、チェックを構成した。これら試料に対して、イメージを官能評価を中心にして検討した。

方法 60項目を官能量として、SD法により各々のイメージプロフィールを求め、同一デザインパターンを含む2色配色と3色配色を組にして比較した。また色に関しては一対比較法による評価特性値から、2色配色と3色配色のイメージに関する効果が色ごとにどのように違うかを求めた。

結果 1. 黄系は8枚の試料に対し、相対明度はほぼ同一で相対彩度の差が二つのグループに分かれているが、SD法の「鮮やかである—鮮やかでない」に対し、2色配色より3色配色の方が試料間の差を置き評価していることがわかる。 2. 一対比較法の結果、青、赤、黄系共に2色配色と3色配色の差が見られる項目は「鈍さ」であり、3色配色が2色配色より鈍いと評価している。 3. 中でも黄系の場合、「明るさ」や「渋さ」に対し、2色配色が3色配色より明るく渋くないと差をつけて評価している。 4. SD法の「装飾的である—装飾的でない」の項目の試料8個の各評価をデータとし、青、赤、黄系ごとに主成分分析を行った結果、青系は2色配色でほぼ類似の相対明度、相対彩度を示している試料は、第3成分までの因子負荷量が明らかに接近していることが示された。